慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	物資配給上の失費
Sub Title	
Author	気賀, 勘重
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1919
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.13, No.8 (1919. 8) ,p.953(1)- 986(34)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19190801-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

パウリスタとは何か

カフェーパウリスタとは、世界の珈琲大産地たる南米ブラジルに於て、我同胞が採培せるコーヒーを、販賣してゐる株式會社（資本金五十萬圓拂込濟にして近く百萬圓に增資の見込）である、ブラジルコーヒーの純良美味なることは、世界的に有名なことで、コーヒーはブラジル產に限ると推讃されてゐる、パウリスタはブラジル國サンパウロ州政府と特約し、優良無比の品質を具備せるものを發賣してゐるが、先般良くも

宮內省御買上

の光榮に浴したのである、東京、大阪、名古屋、神戸其他の都市に、純洋式のコーヒー喫店を設け新鮮甘味の洋菓子を添へて、極力低價を以て販賣してゐるが、共に皆非常の盛況を呈して、本邦唯一の珈琲大販賣舗たるの榮譽を有してゐる、尙濃厚珈琲液コーヒーシロップを發賣してゐるが、純良なるブラジルコーヒーと、精製せる糖蜜との合成を以て皆味優秀、熱湯冷水或は氷に混和して、理想的四季常用の家庭飲料が簡易に得られるので、多大の賞讃を博し、殊に四季御贈答用の最良なる好適品として推賞されてゐる、

カフェーパウリスタは、創立日尙淺きも、優良なる各種發賣品は、夙に江湖諸彥の鑑識に叶ひ、需要激增して業務の發展隆昌日に著しきものがある、パウリスタは各位深厚の此御庇護に報いる爲に益々各種發賣品と各嘆店の改良進步に努力し、併せて今後一層の御愛顧を希のである、

南米ブラジル國サンパウロ州政府專屬コーヒー發賣所

ブラジルコーヒーコーヒーシロップ發賣元　株式會社カフェーパウリスタ

東京市京橋區南傳馬町二丁目　電話（長）京橋一五三五

三田學會雜誌　第十三卷　第八號

論說

物資配給上の失費

氣賀勘重

一

最近兩三年間に於ける急激なる物價の騰貴は都鄙各方面に於ける所謂る生活難の聲をして益甚だしからしめたるものあり。米穀を初として肉類蔬菜綿糸布木材等日常生活の必要品の市價が僅々三四年間に於て二倍三倍乃至四倍せるより觀れば世間一般の此嘆聲は決して無理ならぬ次第なれども、併し實際の事實を仔細に點檢し來れば所謂る生活困難は社會の一部分寧ろ一小部分に現はれたる一時的の現象に過きず、物價騰貴の反面には其騰貴せる物資の生產業者の利潤增

加の事實ある可く、利潤の增加は其事業の擴張發展を促して益、其企業家の利潤を高むると共に、其一面には勞働に對する需要の增加となりて勞銀の騰貴を惹起するの實ある可し。物價騰貴が好景氣を伴ふは畢竟斯る理由に基づくものにして好景氣とは要するに生產從業者の所得の豫想以上に增加せるの謂に外ならざるなり。而して所得にして相當に增加せる以上其一方に於ける物價の多少騰貴するあればとて生活に困難を加ふるの理ある可らざる次第なれば、此等階級の人士の所謂る生活難は實際の生活難を以て目するを得ず。自家製品の價格、自家の所得の增加せるに拘らず、唯、他の生產に係る物資の價格の舊來の如く低廉なるを望み、自家の貨幣所得の增加に比例して其實際所得の增加せざるを見て直に生活難を叫ぶは蓋し餘りに自我的の要求たるの誹を免れざる可し。然れば物價騰貴に際して眞に生活難の境遇に陷る者は此等多數の生產當業者に非ずして唯、其所得增加の物價騰貴に伴はざる一部階級即ち俸給衣食者、年金衣食者、債券利子衣食者等の定額所得者を初め其生產物の價格一般の物價に伴ふて騰貴せざる生產の當業者等あるのみ。其他の階級に至りては所得の增加は寧ろ物價騰貴の割合以上に出で、其生活は豐潤を加へたる可き筈なり。最近生活難又は國民生活危急の叫の各方面に喧傳せらるゝに拘らず、衣服食料品等の賣行益、良好にして日用品並に奢侈品の生產者及び商人の何れも等しく好景氣を謳歌しつゝあるは正に其一例なり。景氣良好にして生活難あるの理なしとせば、目下の所謂る生活難は社會一部の人士の嘆聲に外ならざる可し。

要するに物價騰貴に伴ふ生活難は其騰貴が大凶作其他の生產激減に基づくものに非ざる限り社會の一部に限らるゝの現象にして其一面には一部階級の生活の上進之に伴ふを常とす。換言すれば好景氣に抃舞する一部階級の人士が他の一部階級の實所得を犧牲として其生活を向上するより生ずるの現象なり。然れば一面に於ける好景氣階級の愈、廣く且大なるに從ひ之が爲に壓迫を蒙る階級は愈、狹く且つ小ならざるを得ず。從つて其生活難は愈、益、深酷ならざるを得ざる次第なり。我國最近に於ける物價の騰貴が殆ど各種の生產物全般に亘り、產業界一般悉く好景氣に醉へるの狀あるに際し、此等諸產業從業者の實所得增加か殆ど全く俸給衣食者其他の定額所得者の實所得を犧牲として得られたるものなるを顧

れば定額所得者階級の生活難の甚深の程度は實に察するに餘ありといふ可し。

然れど固と是れ一部階級のことのみ之を以て社會全般の生活難といふ可らず。社會全般の上より觀れば所得不足殊に實所得不足の問題に非ずして所得分配の問題なり。急激なる物價變動の爲に所得分配の平衡破壞せられ各人の實際所得に激變を來せるより起れる問題なり。此激變の爲に實際所得の減少せる者が其減少の勢の何れの邊に止まる可きやを明にするを得ずして將來に於ける生活の不安を感ずること益甚しきに至る可きは勿論、實際所得の增加せる者と雖も其增加の一時的に過ぎずして他日大に減少するに至るの危險なきやは復た多少の懸念なきを得ざる可く、而して物價一般の激騰を眼前に控へたる此懸念は平時に於ける一時的收入增加の場合よりも甚だしきものなきを得ず。觀じ來れば物價の激騰が社會一般の生活を不安ならしむるの事實は或は之を認むるを得可しとするも、其騰貴が一般に生活難を加ふるの事實は吾人遂に之を認むるを得ず。果して然りとせば物價騰貴に伴ふ所謂る生活難の救濟策は所得分配の改善に之を求む可きものといふ可く、比較的實際所得の增加せる階級の所得を割きて實際所得減少せる階級に之を分配するの策を講ずるの外復た他に其途なかる可きなり。

要するに物價騰貴を以て直に一般的生活難の原因と看做すの誤なると等しく生活難の救濟を一に物價の引下に求めんとするは亦大なる誤なり。物價騰貴に伴ふ一部階級の生活難は所得分配の變態に伴ふ一時的の現象なり。各種職業の所得は早晩物價の平準に歸向するの傾あり。唯、物價の變動急激なる場合に於ては一部の所得の比較的增加し他の所得の割合に減少することありと雖も此一時的不權衡は多少の歲月を經過するに於ては假令ひ特に人爲的施設を用ゆることなしとするも自ら平衡狀態に復歸するものなり。而して所得狀態一度平衡狀態に復歸するに於ては假令ひ一般物價は高位に歸着するも將た又低度に歸着するも一般生活の難易には何等の影響あることなし。例令ば今日の物價二倍せりとするも一般の所得亦均等に二倍せりとせば各人の生活には何等軒輊する所なかる可きが如し。問題は物價變動の形勢の進行中のことのみ。騰貴にあれ將た下落にあれ變動の續かん限り前述せる如き所得分配上の不權衡は現下の經濟制度に於ては當然免れ得可らざる所なるも、平時に於ては其變動の勢急激ならず從つて

所得の變動亦略之れに隨從するを得て著しく世人の注意を惹かざるなり。一般生活の安靜といふ見地よりして物價の激變を避くるの必要なるは吾人亦之を認むるに躊躇せずと雖も、一般的生活難の救濟といふ見地より物價の調節を云爲するは吾人其理由を解するに苦まざるを得ず。

何れの社會にせよ一般的生活難の事實ありとせばそは物價の高低如何に在らずして物資の不足に外ならず。物資一般に缺乏し、從つて各員に配給す可き貨物の數量過少なると假令ば最近の歐洲諸國に於けるが如くなるに於ては物價如何に廉なりとするも社會各員一般の生活は非常の困難ならざるを得ず。一般的の生活困難とは蓋し斯る場合をいふに外ならざる可し。果して然りとせば生活難緩和の方策は物價の引下に非ずして供給の增加に待たさる可らず。而して社會全般の上より觀れば供給の增加は結局國民經濟場裡に於ける生產の增加に待たざる可らざるが故に、生活難問題は畢竟生產增加の問題と爲らざるを得ざるなり。

然り而して生產增加の方策は技術の改良、生產組織の改善、資本の增加等數へ來れば種々ある可しと雖も、一言以て之を盡せば生產費を節減するに在り。生產費の節減、詳言すれば從來よりも少なき資本勞力の失費に依りて從來と同量同質の貨物を生產することは、他の一面より觀れば從來と同一の勞力及び資本に依りて從來よりも多量の貨物を生產し得ることなり。即ち若し或貨物の生產に於て從來よりも多少の勞力又は資本を節し得たりとせば、爲に餘剩と爲れる其勞力又は資本は或は之を當該貨物の生產增加に利用して其供給を潤澤ならしむるを得可く將た或は之を他の新貨物の生產に利用するを得可く、何れにしても其結果は國民經濟場裡に於ける貨物供給の潤澤を加へ其生活難を緩和するに至る可き計算なり。斯る節約が廣く各產業各方面に行はるゝこと愈廣きに從ひ其の國民生活に資することの益大なる可きは復た多言を要せず。技術の改良といひ、勞働組織の改善といひ畢竟するに何れも此生產費節約を促して國民生活の向上に資するものに外ならざるなり。

由是觀之、生活難を緩和するの途は社會全般より觀るも個人の場合と等しく可及的無用の失費を節約し生產費を低減して生產の增加を計るの外なきを知る可し。

二

併し生産には由來二樣の意義あり從つて所謂る生産費も亦二樣に解釋せらるゝを免れず。世間普通の解釋に據れば生産とは既存の物質に人力を加へて新なる貨物を産出すること即ち學者の所謂る技術的生産の義にして、例令ば農林業者又は工業家の生産の如く相當の勞力に依り天然物を採取するか又は從來既存の物質と品質又は形體を異にせる貨物を産出するに非ざれば之を生産といふことなきも、斯る採取又は新品質新形體の産出ある以上は其效用又は價値の之か爲に增加せると否とに論なく等しく之を生産と稱するなり。此意味よりすれば技術的生産に從事せる者即ち農業者、工業者鑛山業者等の生産は即ち眞正の生産にして、其生産に費せる失費は等しく之を生産費と稱するを得可きも商人、運輸業者等の如く單に既存貨物の配給のみを事とする當業者の行爲は生産行爲に非ず、從つて其失費も亦生産費に非ざるなり。然れど經濟上より觀る時は生産とは價値の産出又は增加の義に外ならず。蓋し經濟上の目的より吾人が生産を營むは畢竟經濟上に於ける效用即ち價値ある物を得んが爲にして、此價値の産出なき以上其生産は吾人に取つて全く無用のものなればなり。如何に珍異新奇の物を産出したりとて其物が吾人の欲望滿足增進の上に何等の資する所なきに於ては吾人の物質的享樂は爲に何等の得る所なく從つて其産出は經濟上全く失敗たるを免れざるなり。然り而して此意味よりすれば農工業家の生産の生産たるは勿論商業家運輸業者等の配給作用も亦等しく生産たるなり。蓋し農業家が土地に勞力を加へて農作物の成育を助長し家畜の蕃殖を助成するも價値を産出する所以なれば、工業家か既存の貨物に勞力を加へて新なる物品を製造するも價値を産出する所以なると等しく、運輸業者が甲地より乙地に貨物を運送するも價値を增加する所以、而して商業家が價値少なき時又は場所に仕入れて價値多き時又は場所に之を鬻き以て其價値を增大するも亦等しく價値を産出する所以なればなり。從つて經濟上に於ては運送業の要求する運賃も將た又商業家の要求する賣買手數料其他の利潤も農夫又は工業勞働の勞銀と等しく生産費の一部を構成するものたるなり。

單に生産費といへば世人は通例技術的生産の失費即ち農工業等技術的生産の

當業者が其生產の爲に支出する經費のみを聯想するの風あり。從つて生產費の節減を攻究するに際しても主として此種の經費節約に留意するの傾あり。曰く、技術の改良、曰く機械の改造、曰く勞働者の能率增進、曰く作業組織の改善、曰く科學的工場管理、曰く農產物品種の改良、其他生產費節減の方策として唱導せらるゝもの多くは此技術的生產費の節減に關するものに係れるは即ち之が爲なり。而し一般的生活難緩和の手段として此種生產費の節約の至要なるは復た論なしと雖も、然かも是れ世俗の所謂る生產者の見地より觀たる生產費の問題なり。詳言すれば技術的生產の當業者が如何にして他の同業者に優越し競爭場裡に於て優勝を博し得可きかといふ見地より留意攻究せらる可き問題なり。如何にして所要の物資を潤澤に享受し得可きかといふ見地より留意せらるゝの問題に非ざるなり。

生活の難易如何はいふ迄もなく生產者としての問題に非ず、消費者としての問題なり。消費の用に供し得可き貨物の豐富なるや否やの問題なり。貨幣所得を一定せるものとして之を觀れば如何にして所要の物資を廉價に潤澤に享受し得可きやの問題なり。極言すれば消費者としての貨物享得の費用即ち經濟的生產費の多寡如何の問題なり。然るに消費者の見地よりすれば技術的生產の生產費は勿論、技術的生產業者の收受する利潤も、該生產者より之を購入する間に要する各種の失費即ち運賃及び幾多の中間商人の收受する手數料並に利潤も等しく是れ生產費なり。換言すれば之を得るに要する失費なり。故に技術的生產の費用如何に節減せられたりとするも、若し其一方に於て生產者より消費者に達する間に要する所謂る配給の經費の節省せらるゝことなきか若しくは却つて其增加を見るが如きことあるに於ては、生產費節省の效果は必ずしも大に消費者を利し其生活を緩和するの效果あるものに非ず。殊に近世の經濟界に於けるが如く生產者と消費者の關係甚だしく疏隔して其間幾多の仲介商人の媒介を要するの有樣なるに於ては、動もすれば技術的生產費の節減に基づく生產地原價の低落の利益が殆ど仲間商人に吸收せられて復た毫も消費者を利せざるに至るの危險なきに非ず。消費者より觀れば配給上の經費の節約は實に技術的生產の經費節約と等しく否な幾多の場合には後者よりも遙に重大なる利害の關する所なり。然るに

最近生活難の聲都鄙に喧しきに拘らず、世人の注意の獨り主として物價騰貴抑制の上に注がれて復た此の經費節約の方面に留意する者甚だ少なきは吾人頗る異とせざるを得ず。世人の注意斯の如く不充分なるは抑も其問題の今日新に生せるに非ずして常住的の問題なるに依るか、將た或は此方面に於ける經費に著しき節約の餘地なしと認めたるに依るか。若し節約の餘地なしと認めたりとせば吾人又何をか云はん。常住的の問題なるが故に深く攻究するに足らずといはゞ吾人は一部階級の一時的生活難の原因たる物價を調節して一時的の救濟を試むるよりも、一般的生活難の恒久的原因たる高生產費を節約する方策の研究は社會全般の爲に遙に重要なる次第を力說せざるを得ざるなり。

三

貨物配給上の經費中運輸に要する經費殊に鐵道汽船等の運送に支拂はるゝ經費は其實際の失費大略外部に知悉せられ、輿論及び國家の監督嚴なるものあるが上に之を利用する商人の競爭は自ら之を其實際の失費に近からしむるものあり。從つて其經費は當時の技術及び資本の力の許す最低限度に近きの常にして、其間復た多くの節約を許さゞるの狀あり。若し此方面に於ける節約の餘地ありとせば異常の時變に基づく異常なる運輸機關缺乏の場合は兎に角其他の場合に於ては一般に交通機關の完備に待つの外なく、運輸業者の收受する運賃其物を低減して之を節するの餘地は頗る狹少なるの觀なきに非ずと雖も、商人が利潤として收得する配給上の失費即ち商人が甲地に買ひて乙地に賣り又は甲の時に買ひて乙の時に賣却する其間に收むる利益は頗る莫大なるものあるの觀あるに拘らず、之に要する實費の額甚だ不明確にして消費者の見地より觀れば其間節省し得可き餘地の頗る大なるものあるを覺えしむ。

商人の見地より觀れば或は曰はん此利潤は貨物の場所又は時を變じて其效用を增せるの結果にして、其結果を收むるは農工業者が既存の物貨の效用を增し其結果を收むると何等異なる所なし。效用を增進せしめたる當事者が其利益を收むるは決して不當の利益壟斷に非ず、効用の增加あればこそ購買者は高價に購入して商人に利益を得せしむるなれ。商人の利益は他の生產者の收入と等しく效用を增加せるに對する社會の報酬なり。特に他の產業從事者の利得と之を區別

するの理由あるなし。然るに獨り此利益に對して過大の非難を加へ之が節約を叫ぶは其當を得ずと。實に其言の如く商人の利益が其行爲に基づく效用增加に對する社會の報酬なるは勿論、消費者が此效用增加に對して原生產費以上に支拂ふを辭せざる所以なるも亦事實なりと雖も、併し社會全般より觀るも將た又消費者の見地より觀るも其利潤が結局生產費を構成するものたるは復た論を要せず。而して既に生產費なる以上可及的之が節約を謀るは生產增加生活難緩和の手段たるは又疑ふの餘地なかる可し。

此生產費の節約は勿論商人の利得の減少を意味するが故に、斯る目的に出づる施設が商人の存立を危險ならしむるものとして一部論者殊に商人階級の反對を受くるは免れざる所なる可しと雖も、併し商人なる生產階級は社會一般の經濟的生活に取りて絕對的に必要不可缺の要素に非ず。他に之に代りて適當に貨物配給を爲すの任に當る組織だにあらば之を缺くも毫も支障あるなし。唯、當今の社會に於ては他に一層適切に配給の任に當り一層低廉に其任を果たすの組織なきが故に之を必要とするものなり。果して然らば此階級の存立に要する經費を可及的節減するは社會全般の見地よりも頗る有利の處置といはざる可らず。

元來商人の經濟社會に於ける地位は生產者と消費者の間に立ちて貨物の配給を媒介するに在り。生產者の爲には其生產品の販路を求め消費者の爲には需要品の生產者供給者を求むるに在り。其任務は生產者と消費者の間を媒介する從屬的のものなり。既に從屬的の職務なる以上、其職務當事者の利益の爲に主客たる生產者消費者の利益を犧牲とするは根本に於て誤れり。商人の利益の爲に配給の經費を節約するに反對するの謂はれなきこと以て知る可きなり。然れば往時經濟生活未だ單純にして分業の發達幼稚なりし時代に於ては商人の地位は技術的生產業者の下流に置かれ、其利益は生產業者又は消費者の利益に從屬せしめられしなり。然るに分業愈〻進み產業の種類益〻複雜に赴き交易の區域及び數量愈〻擴大するに及び生產者と其の生產物終局の購買者即ち消費者との關係は愈〻隔離して其間事情の疏通殆ど全く困難と爲るに至り、此に其間を媒介する商人の地位は愈〻益〻重要なるものと爲り終れり。蓋し專心生產に從事する生產業者は多く自ら其生產物の販路を明確に知悉するの暇なく販路の狀勢は殆ど全く商人に

問ふの外なきの結果、生產の方針數量等殆ど悉く商人の注意注文又は指揮に依りて決定するに至れると共に、消費者も亦其希望物品の生產者供給者の何れに在るやを詳にするの途なく一に其供給を商人に仰ぐに至りて、商人は此に消費者の消費方針をも或る程度迄之を左右し得ることゝ爲れるなり。即ち本來從屬的地位にある可き商人は需要者供給者双方の事情に精通する配給當局者として一方には生產者に命令し他方には消費者の消費を制限又は變更し得る權力的地位に立つに至り、經濟界指揮の全權は殆ど全く商人の掌裡に歸することゝ爲れり。

勿論多數の場合に於て商人の間には相互の競爭あり。互に競ふて生產業者又は消費者の便宜を助け其顧客を多からしめんと努むるが故に如上の經濟的權力の單に商人の利益の爲に濫用せらるゝが如き場合は比較的少なきが如しと雖も、併し競爭商人の數少なき場合、並に生產者又は消費者の市場の形勢に迂なる場合には商人が其競爭の缺闕又は事情の無知に乘じて獨り利益を壟斷するに至ること決して少からず。殊に供給に多少の過不足ある場合に際し、或は生產者の迂に乘じて極度の賣崩を試みて以て生產者を苦しめ、或は消費者の無知に乘じ買占の